

令和7年度小学校教育課程研究集会資料

図画工作科部会

徳島県立総合教育センター
教職員研修課 森 裕二郎

- 「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善について
～学習の過程を大切にした授業づくり～
- 指導計画の作成と改善について

教科の目標

表現及び鑑賞の活動を通して、
造形的な見方・考え方を働かせ、
生活や社会の中の形や色などと
豊かに関わる資質・能力を次の
とおり育成することを目指す。

I 図画工作科の目標

(1)～(3)を相互に関連させながら育成

(1) 「知識及び技能」に関する目標

対象や事象を捉える造形的な視点について自分の感覚や行為を通して理解するとともに、材料や用具を使い、表し方などを工夫して、創造的につくりったり表したりすることができるようになる。

(2) 「思考力、判断力、表現力等」に関する目標

造形的なよさや美しさ、表したいこと、表し方などについて考え、創造的に発想や構想をしたり、作品などに対する自分の見方や感じ方を深めたりすることができるようになる。

(3) 「学びに向かう力、人間性等」に関する目標

つくりだす喜びを味わうとともに、感性を育み、楽しく豊かな生活を創造しようとする態度を養い、豊かな情操を培う。

「**造形的な見方・考え方**」とは

図画工作科の特質に応じた物事を捉える視点
や考え方

児童が働かせるもの

感性や想像力を働かせ、対象や事象を、形や色
などの**造形的な視点**で捉え、自分のイメージを
もちらながら意味や価値をつくりだすこと。

- ・「深い学び」の鍵となる。
- ・指導改善の視点となる。
- ・教科等を学ぶ本質的な意義の中核をなすものであり、
教科等の学習と社会をつなぐもの。

「造形的な視点」とは…

図画工作科ならではの視点であり、

図画工作科で育成を目指す資質・能力
を支えるもの。

「形や色など」

「形や色などの感じ」

「形や色などの造形的な特徴」など

2 育成を目指す資質・能力を明確にする

知識及び技能

- ・造形的な視点を理解する。
- ・材料や用具を使い、表し方などを工夫して創造的につくったり表したりする。

思考力、判断力、表現力等

- ・発想や構想をする。
- ・自分の見方や感じ方を広げたり深めたりする。

学びに向かう力、人間性等

- ・楽しく(低学年) 進んで(中学年) 主体的に(高学年) 活動に取り組み、つくりだす喜びを味わう。
- ・形や色などに関わり、楽しく豊かな生活を創造しようとする。

2 育成を目指す資質・能力を明確にする

何がその題材の重点となるのか

学習者の視点で学ぶ道筋が明確になっているか

発想や構想の過程

表したいことのイメージが先に明確にあり、それを実現していく傾向の強いもの

表しながら表したいことを次々と思い浮かべ、表現の強い思いが膨らんでいく傾向の強いもの

3 児童の主体性を大切にする

- ・材料や対象などと関わり、じっくり考え、取り組む時間を保障する。
- ・自分で決める場面を設定する。
- ・「今日はこれをがんばる」ということを、児童が理解している。
- ・見通しをもたせる。
- ・振り返る場面を設定する。
- ・表現や鑑賞のよさを捉え、伝えていく。

3 児童の主体性を大切にする

発想や構想に関する指導

表したいことを見付けるきっかけを適切に設定し、児童自身が発想や構想をすることを大切にする。

児童が自分のイメージをもちながら、発想や構想をすることを楽しむことができるような題材を設定する。

例えば……児童の経験と関連付ける。
生活を楽しくすることを考えたり、
未来について思い描くことができる
ようにしたりする。

3 児童の主体性を大切にする

技能に関する指導

児童自身が、表現に適した方法を選ぶ、組み合わせる、新しい方法を見付けるなどして、自分なりに表し方を工夫したり、表現方法をつくりだしたりするという過程を重視する。

児童が自分の表したいことに合わせて材料や用具を選べるよう、表し方を試したり確かめたりできる環境を設定する。

例えば……材料や用具を試す場を設定する。
これまでの経験を確かめることができる
きる資料を掲示する。

多様な試みを支えるために

例えば…

- ・材料は一定程度の量を用意しておく。
- ・体全体を使って活動できるような大きさの段ボールを用意しておく。
- ・表したいことに合わせて選べるように、いろいろな色や形の紙を用意する。
- ・体全体を使って活動できるように、ある程度広い場所で活動する。
- ・友達の表現方法や材料の使い方が自然に取り入れられるように、座席や材料コーナーの配置を工夫する。

3 児童の主体性を大切にする

鑑賞に関する指導

様々な方法で、見る、触れるなどして、感じ取ったり考えたりする過程を大切にし、最初に感じたことと比較して、自分の見方や感じ方が変化したことを自覚できるようにする。

見立てる、比べて見る、対象を自分で選ぶ、自分の気持ちと重ね合わせる、様々な方向から見る、実際に使ってみるなど、様々な活動が考えられる。

3 児童の主体性を大切にする

感性を働かせる

感じ取って自己を形成していくこと
新しい意味や価値を創造していく**能動的**な側面

どうなるんだろう ドキドキ
やってみよう ワクワク
えっ、こうなるんだ！
すごい、変わった！
いいな、おもしろいな
もっと新しいことをやってみたい！

児童が自分と学習のつながりを捉えられるよう
にする。

3 児童の主体性を大切にする

児童の主体性を信じる

児童一人一人の思いを受け止める

児童が自分の成長やよさ、可能性などに気付き、
次の学習につなげられるようにする。

4 共に学び合うことを重視する

活動や作品をつくりだすことは、自分にとっての意味や価値をつくりだすこと。

同時に、自分自身をもつくりだしている。

友達、教師、地域や社会の人々など、様々な人との関係性の中で活動するからこそ充実する。

4 共に学び合うことを重視する

友達と表現や鑑賞のよさを認め合う

つくりだす喜びや、表現や鑑賞することへの自信につながる。

児童が共に学ぶよさを感じられる

安心して活動できる学習環境を整える。

4 共に学び合うことを重視する

言語活動

- ・児童が必要感をもっているか
- ・効果的な場面で行っているか

例えば…

- ・適切な人数で、〔共通事項〕を視点に話し合う。
- ・表現する人の思いや願いについて、感じ取ったことを伝え合ったりする。

など

4 共に学び合うことを重視する

教師の関わり方

表現や鑑賞の活動の過程で、児童が感じたり考えたりしていることを共感的に捉え、受け止めていくことが大切。

どうなるんだろう ドキドキ

やってみよう ワクワク

えっ、こうなるんだ！

すごい、変わった！

いいな、おもしろいな

もっと新しいことをやってみたい！

過程を大切に
することで気
付くことができる。

地域との関わり

- ・児童との関わりが深い地域・社会の資源を活用する
- ・保護者や地域の人などに活動や作品を公開するなど

図画工作で育成を目指す資質・能力について
地域・社会と共有



児童のつくりだす喜び
表現や鑑賞することへの自信

[共通事項] とは…

表現及び鑑賞の活動の中で、共通に必要となる資質・能力

- ・児童が「思考力、判断力、表現力等」や「技能」を働かせる際の具体的な手掛けりになる。
- ・深い学びの鍵となる「造形的な見方・考え方」を働かせる児童の具体的な姿として現れる。
- ・教師にとっては、児童の資質・能力の働きを具体的に捉え、育成するための視点となる。

5 [共通事項] の視点で指導を検討する

[共通事項]

「A表現」及び「B鑑賞」の指導を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。

第1学年
及び
第2学年

ア **自分の感覚や行為を通して、
形や色などに気付くこと**

知識

第3学年
及び
第4学年

ア **自分の感覚や行為を通して、
形や色などの感じが分かること**

第5学年
及び
第6学年

ア **自分の感覚や行為を通して、
形や色などの造形的な特徴を理解すること**

自分の感覚や行為を通して

対象や事象の形や色などに着目するよう
になった児童は、生活や社会の中の形や色
などとも豊かに関わり、自分の世界を広げ
ることにつながる。

5 [共通事項] の視点で指導を検討する

[共通事項]

「A表現」及び「B鑑賞」の指導を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。

第1学年
及び
第2学年

イ 形や色などを基に
自分のイメージをもつこと

第3学年
及び
第4学年

イ 形や色などの感じを基に
自分のイメージをもつこと

第5学年
及び
第6学年

イ 形や色などの造形的な特徴を基に
自分のイメージをもつこと

思考力、
判断力、
表現力等

5 [共通事項] の視点で指導を検討する

児童が自分のイメージを
もっていることは、自然に
発する言葉や、表しつつあ
るものから読み取ることで
捉えることができる。

学習の過程
に目を向け
る必要性

6 ICTの活用について検討する

- 資質・能力の育成と関連付けて活用する。
 - 感性や想像力を働かせる場面を大切にして活用する。
 - 発達の段階や経験に応じて適切に活用する。
-
- ・実際に見る、聴く、触れるなどの身体感覚を働かせて学習する活動と ICT を活用する活動を、授業のどの場面で行うべきか、必要性を十分に検討する。
 - ・**学習のねらいに応じて**選択したり、組み合わせたりして、適切かつ効果的に活用していくことが重要。

6 ICTの活用について検討する

表現や鑑賞で使う用具として

- ・何度もやり直したり、色を変えたりして、様々なに試しながら表現の可能性を広げていく。
- ・作品に関する情報を検索する。
- ・身近にある形や色などで、よさや美しさを感じたものを記録する。
- ・自分たちの活動を写真や動画で記録する。
- ・撮影した写真を材料として、表現に活用する。

など

学習のねらいに応じて必要性を十分に検討し、活用すること。

題材設定の工夫

児童が興味や関心をもち、主体的に取り組むことができるような題材を、**教師の創意工夫を生かして設定**し、児童の資質・能力を育成するようになることが大切。

材料

用具

場所

鑑賞の
対象

題材名

時間

表現
方法

経験

発想の
きっかけ

発想・構想
の過程

興味・関心

7 図画工作科における指導計画の作成と改善

作品や活動は、表現した人そのものの表れであり、作品や活動をつくりだすということは、かけがえのない自分を見いだしたり、つくりだしたりすること。

「造形遊び」、「絵や立体、工作」、「鑑賞」、それぞれの内容の題材をバランスよく配列する。

学習に適した時期、季節、他の教科等、学校や地域の行事との関連にも配慮する。

年度の途中、学年末に内容を見直し、修正することで、より充実した指導計画となる。

8 学習の過程を大切にした授業づくり

過程を大切して授業をつくっていくことで、児童の資質・能力を育成する。

図画工作の時間を、児童も教師も
ワクワクする時間に

児童の「今」を大切に
お互いのよさを感じ、認め合う時間に
様々なよさや美しさに出会えるように